

駅前広場の基本計画案 E案

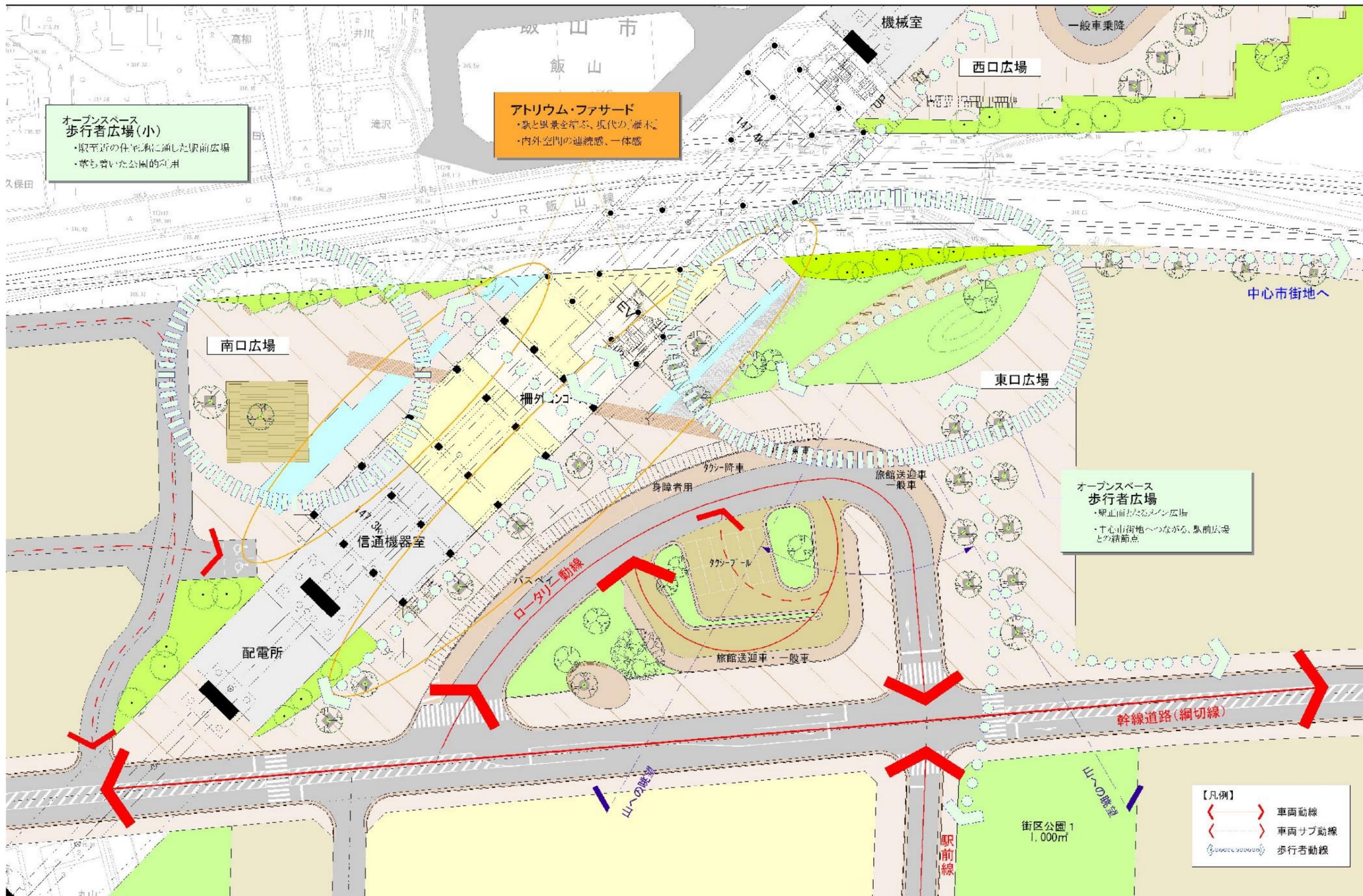
0 10 30 50 M



飯山駅前広場

E 修正案動線計画図

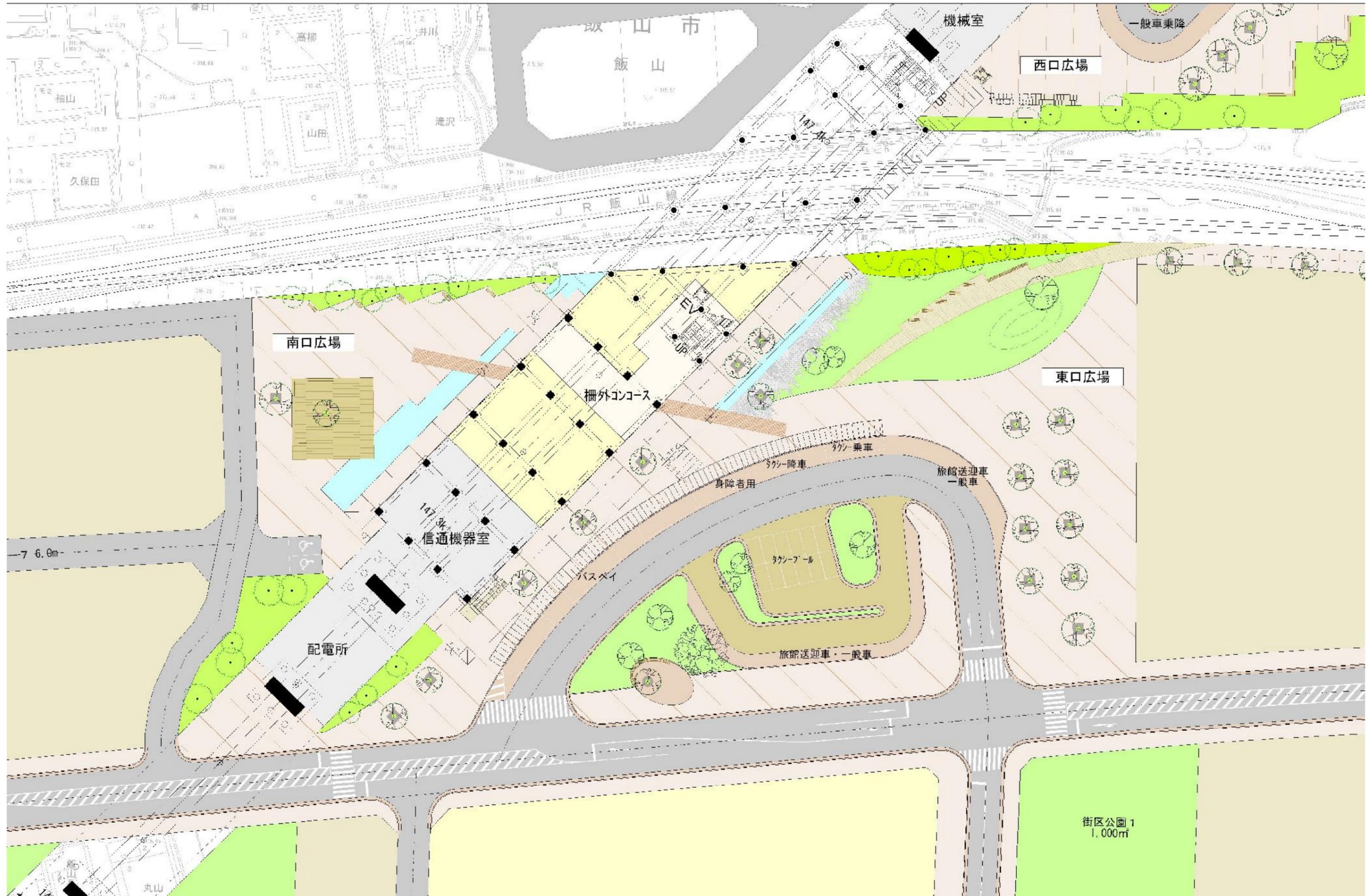
S=1:600



0 10 30 50 M



飯山駅前広場計画平面図 E 修正案 S=1:600



0 20 40 60 80 100 M



駅舎アトリウムのイメージ

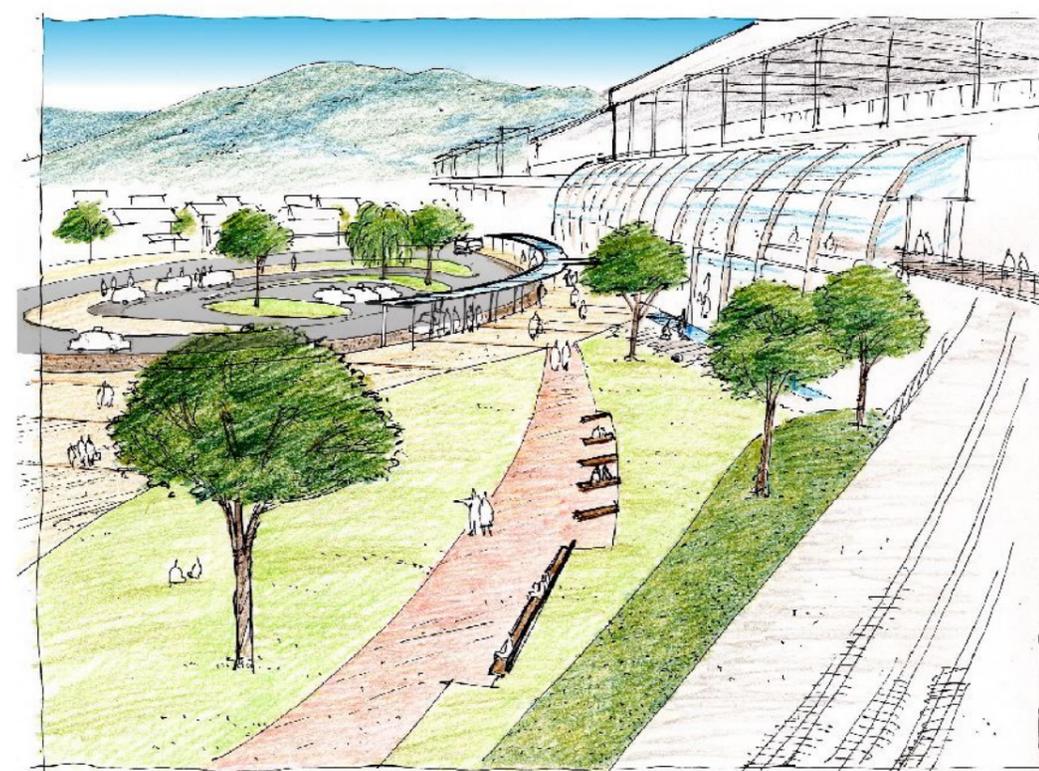
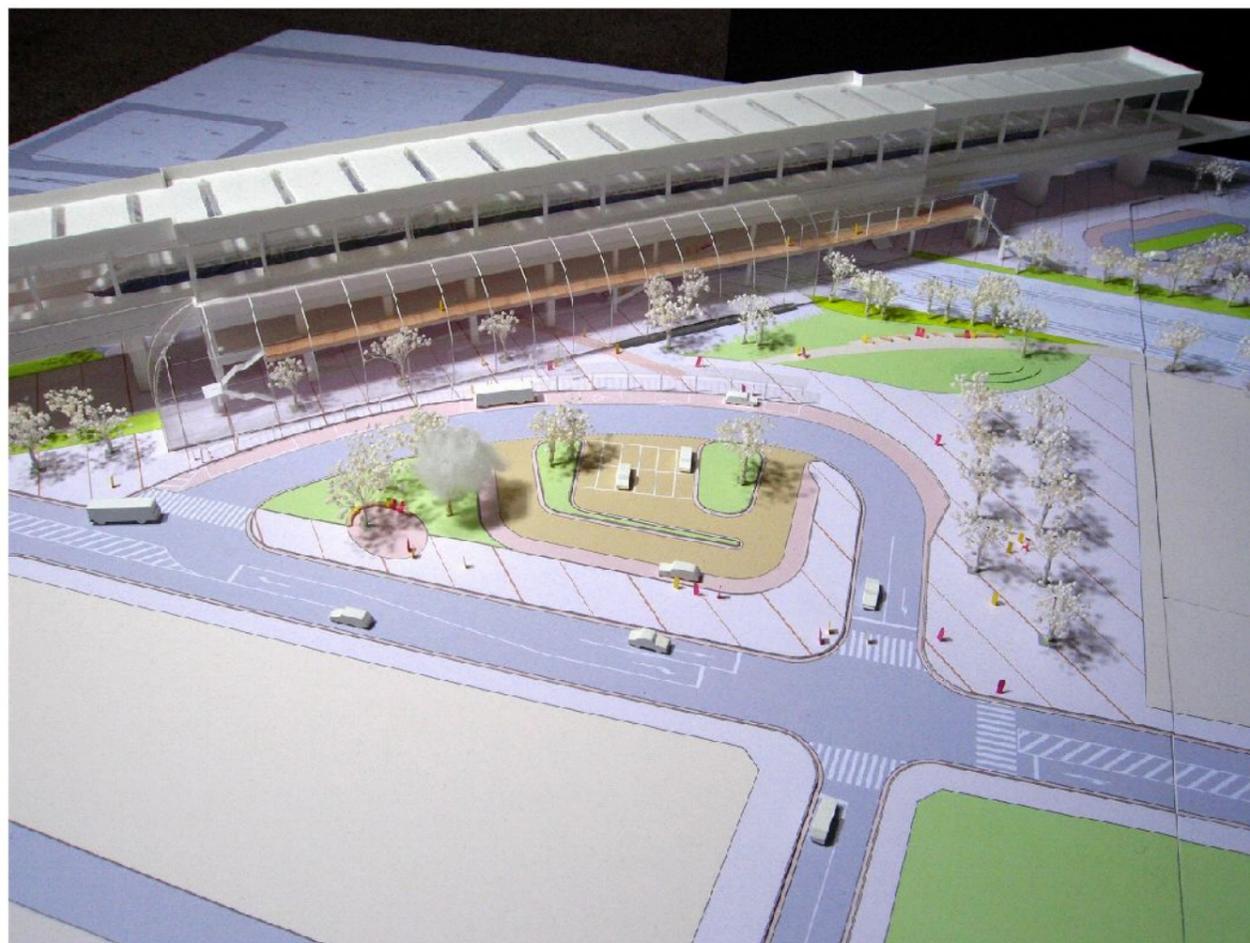
南口広場の整備イメージ

西口広場の整備イメージ

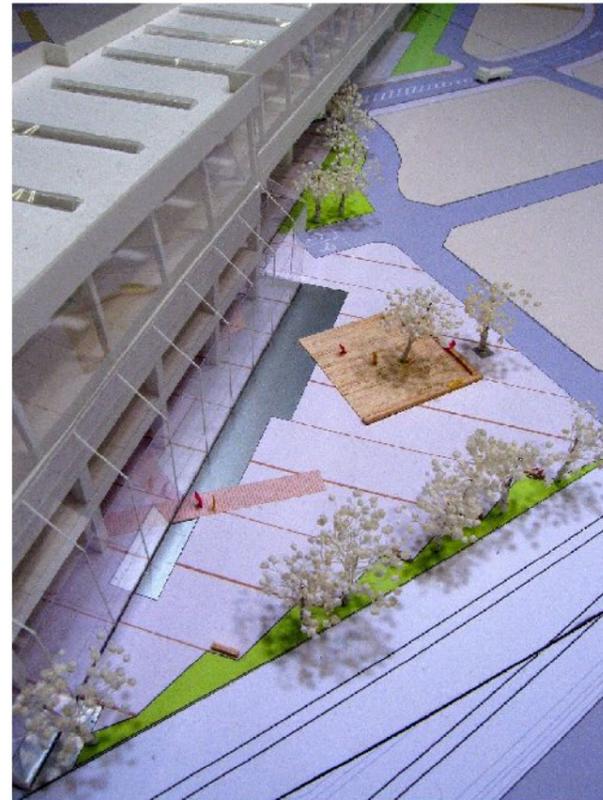
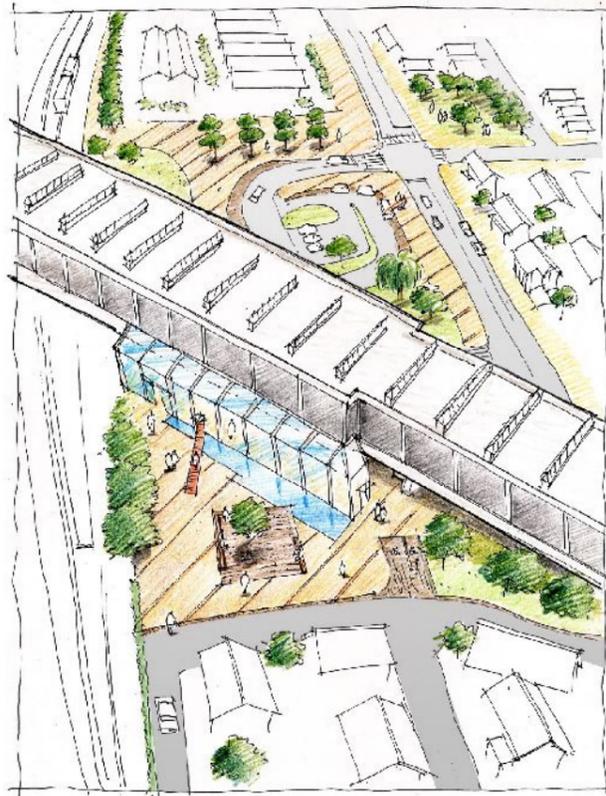
東口広場の整備イメージ

E修正案整備イメージ(模型写真)

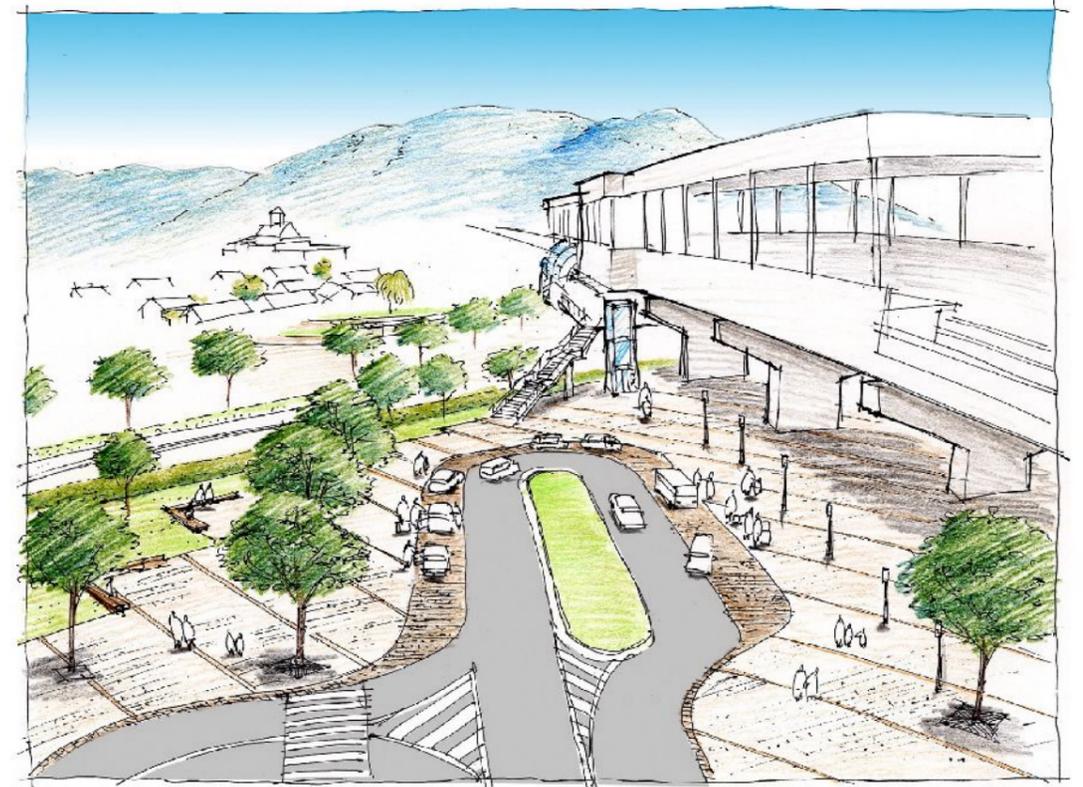




■ 南口広場



■ 西口広場



6) 駅舎デザインの整備方針

(1) 駅舎デザインの課題整理

駅舎デザインにおける課題を以下に整理した。

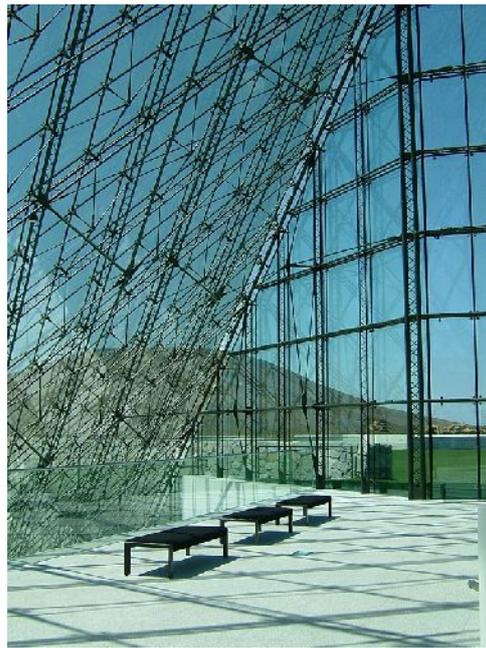
- ・ 鉄道運輸機構の一般的な標準設計による「箱型建築」では、まちづくりの拠点として求心力に乏しく、また飯山の“顔”にはならないと考えられる。何らかの形での景観的配慮が必要である。
- ・ 三層、間口 100mのファサードは、周辺景観に照らし合わせると、明らかにオーバースケールである。極端に横長のプロポーションは、さらに「単断面」構成の施設形態という、分割しにくい性質を持っており、均一で単調な表情になりやすい。
- ・ 飯山市を建設主体として想定している仮称：旅の交流拠点施設(3-6、付属資料参照)は鉄道施設との「合築」が基本である。一般的には、ある程度のボリュームの施設が駅舎ファサードに接しつつ広場空間に立ち現れる。この場合、単調なファサードに対するアクセントとしてデザインする方法が基本である。
- ・ 合築の場合、交通広場前には空間的余裕がないため、オープンスペース部に配置せざるを得ないが、さほど広いとはいいがたい貴重な広場空間を削減する形となる。
- ・ 合築部以外については、壁面などのファサード修景が必要となるが、その仕様や費用負担について、鉄道事業者との協議が必須である。
- ・ この規模形態だと、飯山市内の一般的建築様式（伝統建築、木製格子などの和様式）ではデザインが困難である。無理にデザインして大伽藍の寺院建築のようにすることは論外だし、大壁面を木製格子（あるいはルーバーなど）で覆うというのも、相応のコスト高が避けられない。むしろここは、ニュートラルでシンプルな造形性が基本と考えられる。

以上のような状況から、単体のボリュームが駅舎に部分的に取り付くという形ではなく、駅舎外壁面全体を薄くリニアに覆うというコンセプトが導き出された。「アトリウム・ファサード」と称されるそれは、以上の課題を相当な箇所において抜本的に解決するものである。

(2) コンセプトとしての「アトリウム・ファサード」

「アトリウム・ファサード」の整備イメージは以下のように整理できる。

- 合築方式により、駅舎外壁面を覆う形でガラスハウス型のアトリウムを設ける。アトリウム内部には、駅舎コンコース階に合わせてデッキ空間が取り付け、階段や高木などが絡み合い、魅力的で開放感のある吹き抜け空間となる。
- JRにおいては外壁面が省略できる（コストダウン）。飯山市においては、主構造を駅舎構造フレームに依存することで、やはりコストダウンが図れる。
- 広場に対して正面ファサードを獲得すると同時に、駅舎内部と駅前広場をつなぐ多層的な「縁側」空間が創出される。外部とも内部ともつかない、あるいはその両義である空間性は、地元の伝統様式である「雁木」に通じる。雪を克服し、雪と共存する駅の形である。
- 構造は、鉄骨造のカーテンウォールが基本と考えられるが、地場材の集成材とすることも十分可能である。
- グラスハウスの形状であり、夏の遮光を考慮する必要がある。カーテンウォール内側にシェードを設けるなど考えられる。
- カーテンウォール足元には、積雪時に雪溜りとなることが予測される。そこに融雪も兼ねた水盤を設けることは、飯山の伝統様式「雪だね」の応用であり、春～秋には水景として広場を演出するものである。

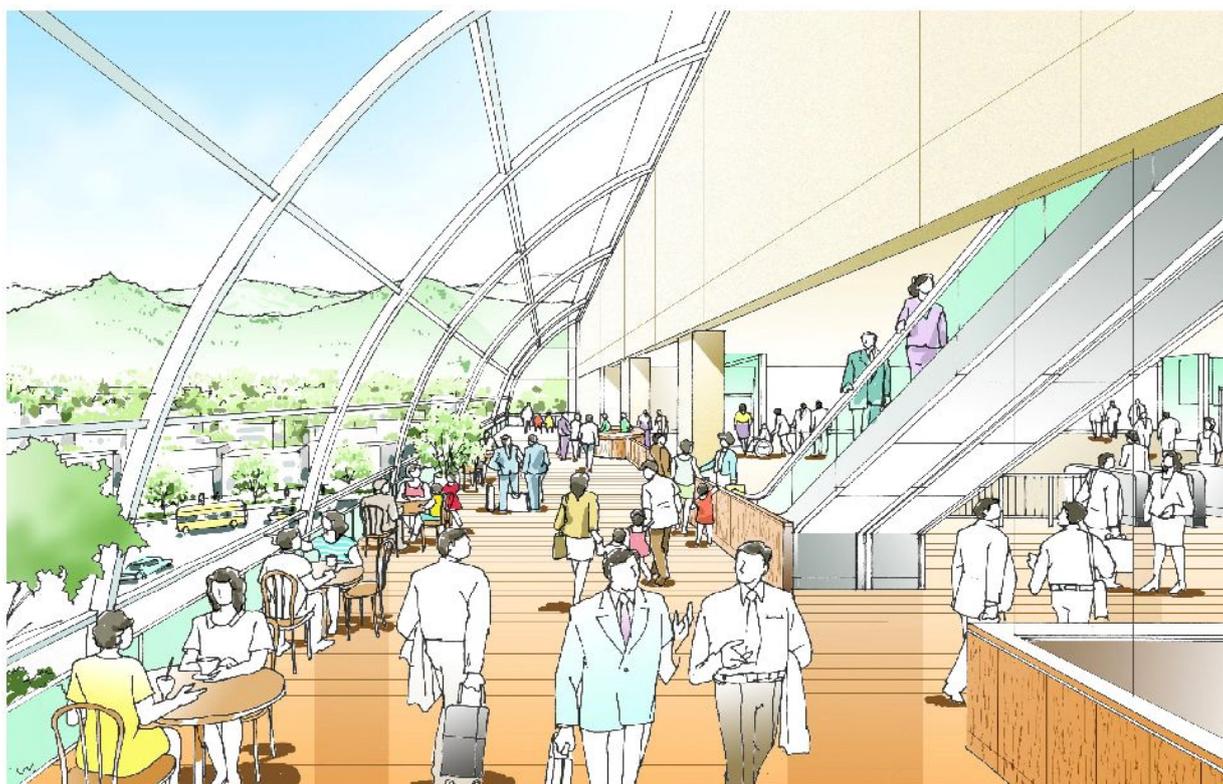


ガラスのアトリウム（モエレ沼公園，札幌市）

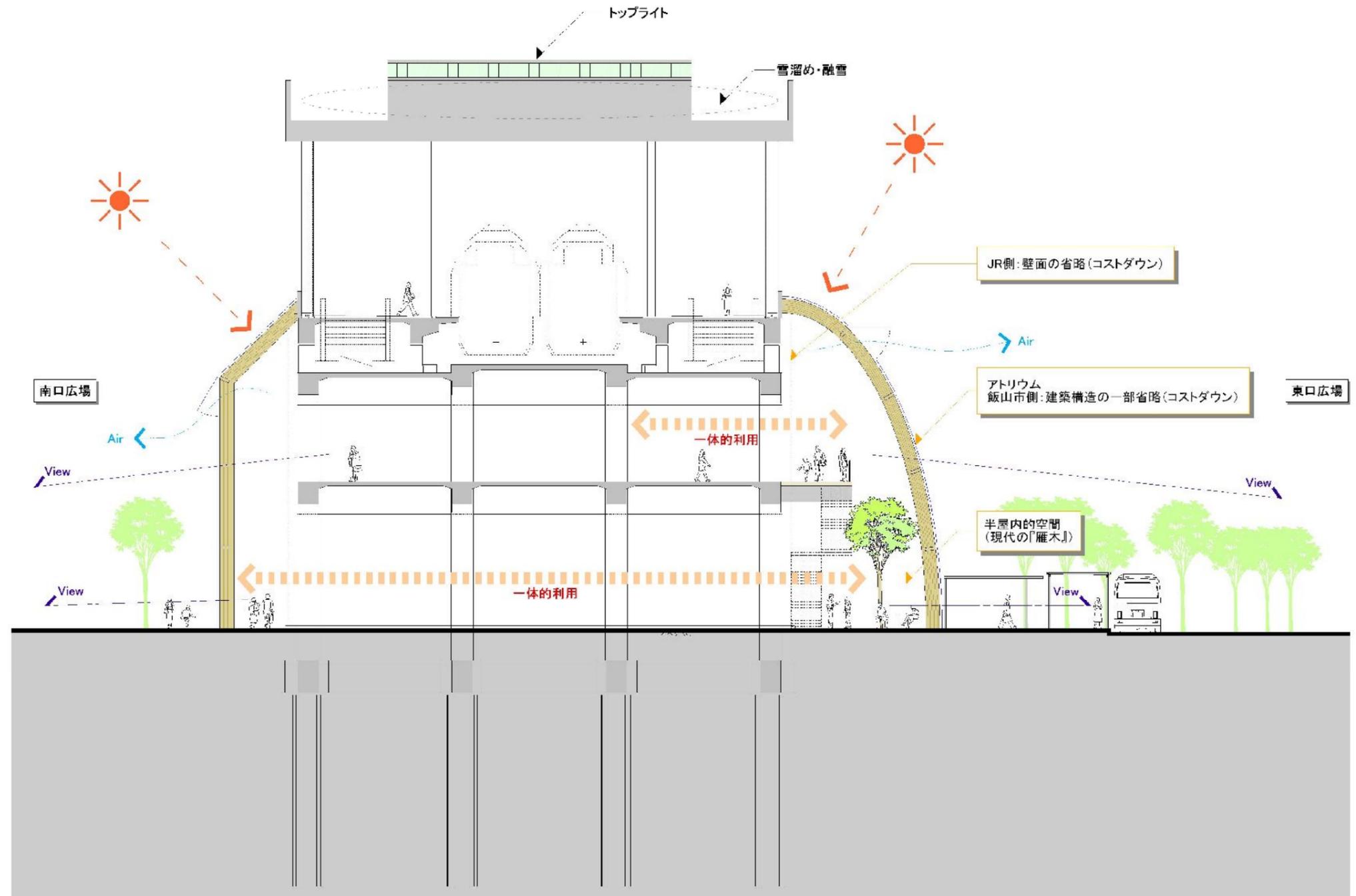


集成材による大開口部の例（皇居外苑）

■図表 4.3 駅舎2階、柵(らち)外コンコースのイメージスケッチ



コンコースの柵内と柵外の境界部分は、視覚的に一体感を保ち、送迎スペースとしても機能するよう設計に配慮する。また、旅情報や旅案内センターは、柵内・柵外の境界の部分に設け、新幹線乗降客とアトリウム利用客の両者が利用可能な仕組みとする。



■図表 4.5 駅舎デザイン検討模型

